

今月はICOの7月マーケットレポート及びトピックスとしてロスアンゼルスタイムス紙記事、全米コーヒー協会メンバーアラート、ブルンバーク紙記事の邦訳をお届けします。



コーヒー価格は2017/18年度のブラジルコーヒーに対する懸念が出てきた為上昇した。

ICO複合指標価格は、ブラジルの2017/18年度コーヒーに関し生産性が低く品質にも問題があるとのレポートが発表された為、4月以降で初めて130米セント/LBを超えた。過去2ヶ月コーヒー輸出は落ち着いてきたが、これまでの累計輸出量は昨年をかなり上回っており、消費国在庫量を高止まりさせている。ICOの2016/17年度生産量予想は153.9百万袋に上方修正されたがこれは過去の歴史となる生産量記録である。アラビカコーヒーとロブスタコーヒーは2015/16年度に比較して夫々、10.2%増及び10.6%減の数字である。

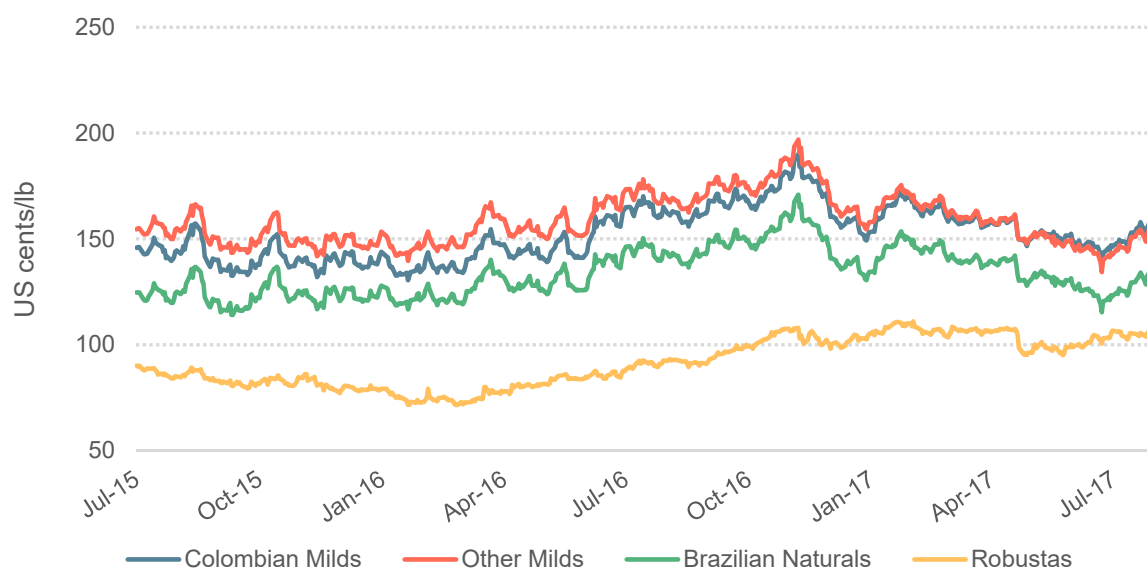
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

7月のコーヒー価格は大幅に上昇し、ICO複合指標価格の月間平均値は前月比4%上昇し、米セント127.26/LBを付けた。月初は弱く始まり7月11日には最安値となる米セント122.17/LBとなったがその後、月末まで堅調に推移した。7月31日に複合指標価格は131.52/LBを付けたがこれは7月3日の指標価格に比べると米セント6.66/LB高く、2017年4月以降の最高値である。

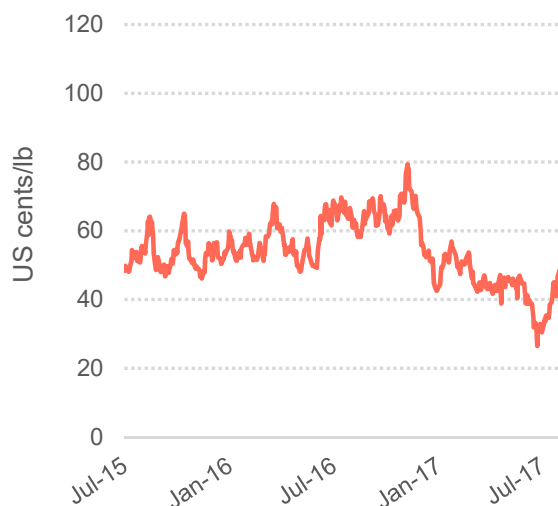
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

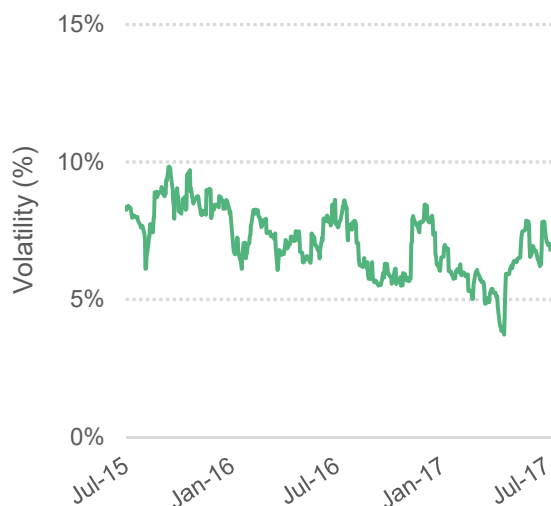
7月のグループ指標価格を見ると6月に比べアラビカグループの上昇の方がロブスタコーヒーより大幅である。全3アラビカグループの指標価格が大幅に上げ、コロンビアマイルド、アザーマイルド及びブラジルナチュラルの月間平均値は夫々4.4%、4.5%、4.4%上昇した。ロブスタグループの月間平均値は2.9%上げた。アラビカとロブスタの夫々の値動きの結果、ニューヨークとロンドン先物市場で表されるアラビカとロブスタコーヒーのアービトラージは13.1%上昇し米セント39.68/LBとなった。一方日次ICO複合指標価格の価格変動率は0.5%上昇し7.5%となった。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物価格のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

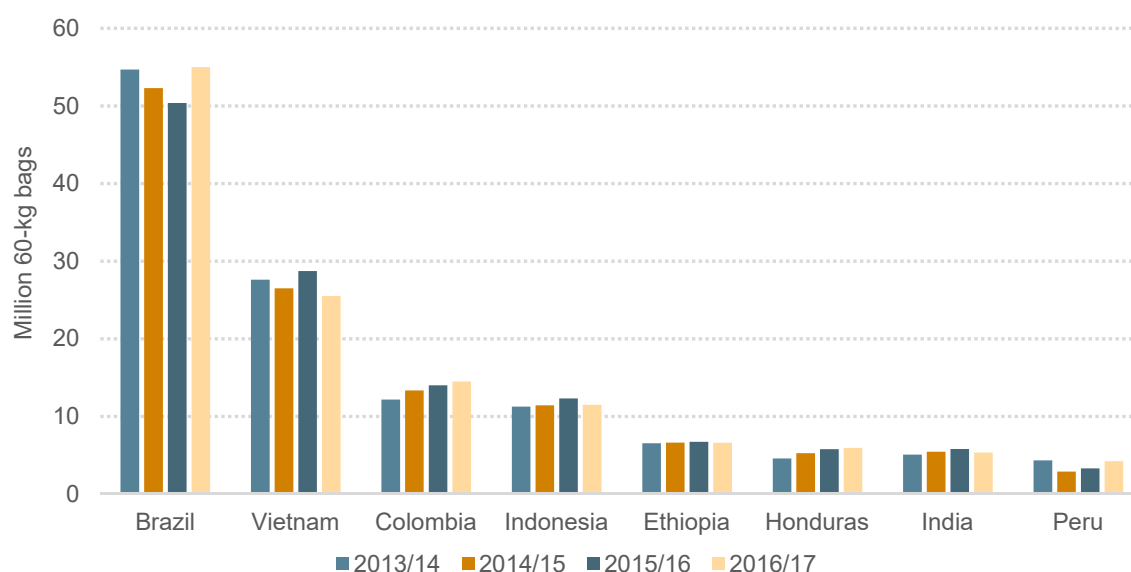
2017年6月の全輸出量は前年6月に比べ5.7%増え10.4百万袋となった。2016/17年度の最初の9カ月の累計輸出量は、昨年度の87.4百万袋に比べ4.9百万袋増加した。輸出が増えたことで輸入国の在庫量は積み増された。

7月の値動きの原因となったのはブラジルコーヒー供給に影響を与える作柄及び経済要因が重なったものである。即ちまず2017/18年度のアラビカコーヒーを現在収穫中の農家から生産性が低いとの第一報が入った。季節初めの天候不順でコーヒー豆のサイズが通常より小さいというのである。更に、豆がベリーボラーに侵食されているというのである。即ち効果はあるが問題含みの殺虫剤エンドスルファン（endosulfan）の使用禁止でベリーボラーが増殖したというのである。主要アラビカ産地の収穫済みコーヒーの30%近くが被害を受け、品質が劣化しているとのことである。これらブラジルコーヒーの作柄に関する要因以外に米ドルがブラジル通貨レアルに対し弱含んだことからブラジルコーヒーが輸出競争力を失い、同国の輸出量が減少したこともある。

ICOは2016/17年度の生産量見通しを前年度予想の151.6百万袋から153.9百万袋に上方修正した。これは主にインドネシアの生産量見通しが10百万袋から11.5百万袋に増えたこと及びペルーの見通しが4.2百万袋に引き上げられたことによるものである。一方コロンビアの生産量はさび病危機から大幅に改善したとは言えるものの生産量の増加率は徐々に縮小している。即ち2014/15年度は前年対比9.7%生産量が増えたが、2016/17年度は前年比推定3.5%の増加である。そして、最近の天候異変もあり2017/18年度の増加率は更に下方修正しなくてはならないとの懸念が出てきている。

結果として、2016/17年度の総生産量は前年度対比1.5%増が予想されるがこの数字は過去の記録である。アラビカコーヒーの生産量見通しは、前年比10.2%増の97.3百万袋であり、ロブスタの生産量は10.6%減の56.6百万袋である。

グラフ 5: 主要生産国のコーヒー生産量



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jul-16	132.98	164.46	171.76	144.76	90.82	148.16	82.09
Aug-16	131.00	160.78	167.54	141.41	91.79	145.37	83.47
Sep-16	138.22	168.85	176.30	149.80	96.88	154.87	88.63
Oct-16	142.68	172.28	178.96	153.15	103.65	160.07	95.30
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
% change between Jul-17 and Jun-17							
	4.0%	4.4%	4.5%	4.4%	2.9%	5.9%	3.1%
価格変動率 (%)							
Jun-17	6.9%	6.7%	7.0%	8.1%	7.3%	9.3%	7.1%
Jul-17	7.5%	8.3%	8.5%	9.2%	5.8%	10.4%	6.3%
Variation between Jul-17 and Jun-17							
	0.5%	1.6%	1.5%	1.0%	-1.5%	1.0%	-0.7%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jul-16	-7.30	19.70	73.64	27.00	80.94	53.94	66.07
Aug-16	-6.76	19.37	68.99	26.13	75.75	49.62	61.90
Sep-16	-7.45	19.05	71.97	26.50	79.42	52.92	66.24
Oct-16	-6.68	19.13	68.63	25.81	75.31	49.50	64.77
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.89	22.41	44.17	19.51	41.28	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
% change between Jul-17 and Jun-17							
	-1.4%	4.1%	7.7%	4.9%	8.3%	11.4%	13.1%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 3: 世界の需給バランス

Crop year commencing	2013	2014	2015	2016*	% change 2015-16
PRODUCTION	152 228	148 738	151 565	153 869	1.5%
Arabica	90 281	86 152	88 252	97 269	10.2%
Robusta	61 947	62 586	63 314	56 600	-10.6%
Africa	16 244	16 013	16 338	16 426	0.5%
Asia & Oceania	46 449	45 659	49 012	44 830	-8.5%
Mexico & Central America	16 717	17 117	17 251	17 735	2.8%
South America	72 818	69 950	68 964	74 878	8.6%
CONSUMPTION	149 022	151 758	155 469	155 061	-0.3%
Exporting countries	46 109	47 245	48 244	48 298	0.1%
Importing countries (Coffee Years)	102 913	104 513	107 225	106 763	-0.4%
Africa	10 597	10 754	10 794	10 735	-0.5%
Asia & Oceania	30 701	32 550	33 611	33 669	0.2%
Mexico & Central America	5 156	5 235	5 306	5 237	-1.3%
Europe	50 179	50 912	51 590	51 544	-0.1%
North America	27 706	27 359	28 931	28 535	-1.4%
South America	24 682	24 949	25 237	25 341	0.4%
BALANCE	3 206	-3 020	-3 904	-1 192	-69.5%

単位：千袋

*推定値

表 4: 輸出国の総輸出量

	June 2016	June 2017	% change	2015/16	October - June 2016/17	% change
TOTAL	9 877	10 437	5.7%	87 366	92 293	5.6%
Arabicas	5 863	6 547	11.7%	54 237	58 215	7.3%
Colombian Milds	1 050	1 034	-1.5%	10 591	11 162	5.4%
Other Milds	2 237	2 818	26.0%	17 085	20 174	18.1%
Brazilian Naturals	2 576	2 694	4.6%	26 561	26 879	1.2%
Robustas	4 014	3 890	-3.1%	33 129	34 079	2.9%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Jul-16	Aug-16	Sep-16	Oct-16	Nov-16	Dec-16	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17
New York	1.45	1.45	1.42	1.44	1.42	1.40	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65	1.70	1.73
London	2.45	2.37	2.32	2.28	2.38	2.39	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87	2.81	2.63

単位：百万袋

ートピックス（１）ー

7月12日 ロスアンゼルスタイムズ

2つの大規模研究によりコーヒーは（デカフェでさえも）体に良いという主張が裏付けられた。

2017年7月10日：Karen Kaplan 寄稿

あなたが朝、家を出る前に1杯以上のコーヒーを飲み、その後屋外でも2～3杯のコーヒーを飲む人であれば、多分あなたはコーヒーを飲むとシャキッとする効果があると思っているのだろう。

しかし最近発表された研究によるとその効果は単なる余禄（Bonus）に過ぎないとのことである。即ちコーヒー飲用の最大の効用は、心臓病、糖尿病、癌などによるあなたの早死にのリスクを軽減することにあるのである。

月曜日（7月10日）、雑誌内科医療（Annals of Internal Medicine）に発表された大規模研究によると、人はコーヒーを飲むほど男も女も早死にのリスクを軽減することが出来るとのことである。この効果は人種、民族、文化的な背景の違いは関係なく700000人について概ね共通して言えることである。更に、このコーヒーと早死にとの逆相関性はデカフェを飲む人についても当てはまるとのことである。

過去にもコーヒーは体に害を与えないとか体に良い等という内容の研究発表は存在した。しかし、それ等研究の調査対象者の数は少なくかつ殆どが欧州系（白人系）子孫を対象としたものだった。

しかし今回、国立癌研究所（USC）とハワイ大学がそれを改める為に行った他民族コホート研究は、185,855人（1993年からボランティア参加）に上る米国人を対象に彼らのコーヒー飲用習慣を調査したものである。各ボランティアの調査期間は平均16.2年に上るものであった。

全体の16%のコーヒーを全く飲まなかった人に比べると、毎日2杯以上飲む人は調査期間中の死亡率が18%低かった。加えて1週間に1杯～6杯しか飲まない人の死亡率も12%低かったのである。これら二つの調査結果は、よく知られた喫煙（コーヒーを飲むときに煙草を吸うことが多い）、食事、体脂肪率などの早死にリスク要因を考慮した上で計算されたものである。

研究者が白人、黒人、ラテン、日系アメリカ人、ハワイ土着人を夫々別々に調査したところ、調査結果に人種や民族による違いはなかったとのことである。コーヒー飲用と長寿が関係することは、統計的にハワイ土着民以外の全てのグループにおいて明らかだった。ただ、ハワイ土着民については、両者の関係が偶然だった可能性を否定する十分なサンプル数が

無かったようである。

著者はコーヒー飲用と米国 10 大死亡原因夫々との関係も調査した（調査期間中 58397 件の死因の中でこれらの要因が 81%を占めていた）。コーヒーを飲めば飲むほど人が心臓病、癌、慢性低呼吸器疾患、脳卒中、糖尿病、腎臓病で死ぬリスクは低くなっている。また死因がインフルエンザ、肺炎、アルツハイマー、事故もしくは自殺の場合にはコーヒー飲用との関連性は存在しなかった。

これまではコーヒー飲用と健康リスクについて、白人以外の人については十分なデータが存在していなかった。従い研究者は、欧州系子孫で観察されたコーヒーと早死にの逆相関性について他の人種についても同様に当てはまると断言することは出来なかった。

しかし、今はそれが言えるのである。これはコーヒーを飲む人にとって朗報であるだけでなく、両者の関係について生物学的説明が可能になるということでもある（これについては今後解明されることになるだろう）。

次に紹介する研究は、欧州 10 か国（デンマーク、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデン、英国）521330 人を対象にしたコーヒーと早死にの関係について調査した『癌と食事についての欧州人研究』についてである。この研究にボランティア参加した研究対象者については平均 16.4 年間に亘り追跡調査されている。

この調査に於いても研究者（殆どが欧州人）は、夫々の国の最も頻繁にコーヒーを飲む上位 25%の人はコーヒーを飲まない人に比べ研究期間中に早死にした割合が低かった。著者が、喫煙、食事及びその他の要因を考慮した上で、計算したところコーヒーをよく飲む人の早死にのリスクは男性で 12%、女性では 7%低かったとのことである。

米国の研究と同様に欧州の研究でも全ての国でコーヒーが健康に資するとの結論が得られた。

両研究ともデカフェを飲む人についても、普通のコーヒーを飲む人と同じ研究結果が得られた。

また両研究とも非常に多くの対象者を調査したものだが、この研究はより多くのコーヒーを飲めば更に長生きできるという結論を導きだすためのものではなかった。そうするには乱塊法（無作為に行う実験法）を取り入れる必要があるだろう。

しかし、研究発表に付されたコメントに書かれているようにコーヒーに含まれている何らかの成分が早死にのリスクを軽減させていることは明らかである。

例えば、コーヒーに含まれているポリフェノールが、細胞がフリーラディカルと呼ばれる破壊効果のある分子を攻撃するのを助け、抗酸化物質として働いているのだろう。またカフェイン新陳代謝に関係する遺伝子が血圧やコレステロール等に影響を及ぼしていることも考えられる。

両研究グループの著者共に、コーヒー飲用がインスリン分泌、炎症など肝機能を改善する働きに関係しているという過去の研究成果を確認している。

研究論説はコーヒーを飲むことが『死亡率を下げるもしくは慢性疾患を防ぐ』手段だと推奨するには『時期尚早』だと結論づけている。しかし、少なくとも毎日5杯もコーヒーを飲むと人体に害を及ぼすかもしれないという恐れを払しょくする効果はあるだろうとも言っている。

世界のどこかで毎日、推定22.5億杯のコーヒーが飲まれているということを考えると、この研究結果はエスプレッソ、ラッテ、カプチーノ、レギュラーコーヒーで祝福すべき事柄ではないだろうか。

以上

—トピックス (2) —

7月28日 全米コーヒー協会 (NCA) メンバーアラート

木曜日 (7月27日)、共和党のリーダーは、議論されていた国境調整税 (コーヒー輸入申告額の最大20%の輸入関税を負荷するというもの) について同党が提案する徴税プランから削除することになったと発言した。

CNBC ニュースレポートによると税制改革プランについて検討を重ねてきた下院、上院、行政 (White House) のリーダーは木曜日の共同会見で、『我々は国境調整税による経済成長促進を議論してきたが、多くの不確定要素がある為、税制改革の話を先に進める為にとりあえずこの政策を棚上げする (set aside) ことに決めた』と述べた。

国境調整税は貿易不均衡是正の為、収入を増やす目的で導入されるもので輸出ではなく輸入貨物に課税されるものである。

しかし、全国の製造業界や小売業界から仕入れ価格の増加は最終消費者の負担増を伴うことになるとの懸念の声が上がった。

このことは特に、99%を輸入に頼るコーヒーについては真実である。即ち、もし国境調整税が法令化すれば、それは15~20%の輸入関税がコーヒー最終製品価格に上乗せされることを意味するからである。

全米コーヒー協会（NCA）は5月に国境調整税の法令化阻止の為にロビー活動を行う目的で2日間ワシントンに出向いた。25人のコーヒー業界リーダー、理事、専門家等で構成されたNCA代表団は影響力ある国会議員等と60会合を持ち国境調整税の問題点や課題を議論した。NCA代表団は、コーヒーは国内で作られる可能性のある他物品とは違い、輸入に頼らざるを得ないということや、国境調整税が米国内の雇用、税収入、及び消費者に与える影響がいかに大きいかということ等を主張した。

このニュースはとりあえずの朗報とは言えるが、先行きどうなるかは未だ不明の部分もある。今のところ税制改革プランの行方についてこれ以上の情報はない。今後の行方、及びその影響については何か進展あり次第お知らせするつもりである。

以上

—トピックス（3）—

8月2日、ブルンバーグ（Bloomberg）

Innocent Anguyo と Isis Almeida 寄稿

流行りの一杯4ドルのコーヒーが時代遅れのアフリカコーヒーを蘇らせる

- ・ベトナムとブラジルコーヒーの生産量が増える一方、アフリカの生産量は縮小してしまった。
- ・都市化及び食用作物への転作がアフリカアラビカコーヒーにとっての脅威である。

Julien Ochala氏はモーニングコーヒーなしでは生活できないほどである。しかし、どこのコーヒーでもよいという訳ではない。このロンドンKing's Collegeの生理学講師は、同じ店で毎週一回彼のお気に入りのケニアコーヒーを過去5年間ずっと買い続けている。37ポンド/KG(USD22/LB)というスーパーマーケットのよく似たコーヒーの2倍の値段が彼の購買意欲を削ぐことはなかった。Ochala氏によると彼は毎朝、Borough市場のMonmouth Coffee Companyで買うケニアコーヒーを飲んでいるとのことである。彼は『私がこのコーヒーが好きな理由は相対的に高い特徴のある酸味で、このコーヒーを飲むと午後もしゃキッと出来るからだ』と言っている。

アフリカコーヒーを、プレミアムを払ってまで買う消費者の購買理由はコーヒーの原種が採れたアフリカ大陸のコーヒーが持つ花のような、フルーティーな香りなのである。ある

伝説によると、エチオピアの羊飼いが 1000 年以上前にコーヒーを発見したとのことである。今日 Monmouth のコーヒー価格は、ロンドンのスターバックスのコーヒーが一杯 3 ドルするのに対し、4 ドルもするのである。

コーヒー生産量が 40 年前の四分の三に落ち込んだアフリカのコーヒー農家にとってはこのような新規ニーズがあることは喜ばしいことである。インスタントコーヒー用に好んで使われる安価なロブスタコーヒーの生産者にとっては安いコストで大量生産できるベトナムコーヒーに太刀打ちできる状況にはない。またブラジルは中品質アラビカコーヒーで価格競争力を持っている。

米国市場へのルアンダコーヒーのサプライヤーでシアトルに Coffee Rwanda 社を創設した Karl Weyrauch 氏によると『西洋では昔エチオピアコーヒーが有名だったが、今や目にすることが多いのはルアンダやケニアコーヒーであり、ブルンディ、ウガンダ、コンゴコーヒーも名が通るようになってきている』とのことである。更に『アフリカコーヒーが珍しいと思う消費者もあり、彼らの好奇心をそそっている』とも言っている。

しかし、生産量は昔ほどではない。1975 年当時、世界 10 大コーヒー生産国にアフリカの国は 4 か国入っていた。しかし、今や残っているのはエチオピアとウガンダのみである。

世界の大手コーヒートレーダー・ボルカフェ社の主任研究員 Keith Flury 氏によると『アフリカのコーヒー生産は厳しい状況に置かれている。ケニアでは、ナイロビの都市化は急速に進み、かつてコーヒーが植えられていた地域にまで広がっている。また、Rwanda や Burundi では人口増加に備える為、コーヒー畑が自給自足用作物に転作されている』とのことである。

国際コーヒー機関（ICO）によると、アフリカの若者達はより稼ぎの多い仕事を好みコーヒーを敬遠しがちであるとのことである。結果としてアフリカのコーヒー生産者の平均年齢は 60 歳以上に留まっていると。不安定な政治情勢もまたコーヒー生産を難しくしている。ネススル社のネスプレッソブランドは昨年、南スーダンでの市民戦争の勃発により同国での操業を停止した。

アフリカ・ファインコーヒー協会のプログラママネージャー Martin Maraka 氏によると『ナイロビではコーヒー農家はコーヒーを作るより不動産開発会社に土地を売った方が儲けが大きい』とのことである。人口増加と都市化は留まる気配が見えない。国連によるとアフリカ大陸の人口は、2050 年までに 13 億人増える見通しで、世界全体の人口増の 50% 以上を占めているとのことである。

世界のコーヒー需要は増えているが、アフリカのコーヒー輸出量は 2000 年代初頭以降横

ばいである。一方、世界全体のコーヒー輸出量は同期間中 37%増えており、これは消費量の増加とほぼ同じである。

昨年ロブスタコーヒーのロンドン先物価格は 17%上昇し、USD2132/MT を付けた。一方、例えばスターバックスコーヒーが提供するようなスペシャルティ業界が好むアラビカコーヒーはニューヨーク先物価格が 2.3%下げ、USD 1.3805/LB になった。

アフリカコーヒーがよく使われるブレンドコーヒー（スーパーマーケット等で売られる様々な生産国のコーヒーをミックスしたコーヒー）の需要はほぼ横ばいだったが、今後成長が期待されるのは特定の産地のコーヒー所謂、単一オリジン（single origin）である。

貿易業者を引き付けるのはブラジルやベトナムコーヒーより利ザヤが稼げるニッチなアフリカコーヒーである。昨年、シンガポールに拠点を置く大手食糧商社 Olam International 社は 19 世紀から家族経営で東アフリカに特化した Schluter SA 社に 7.5 百万ドルを支払った。Neumann Kaffee Gruppe 社、Volcafe 社、Louis Dreyfus 社、Ecom Agroindustrial 社などもアフリカに拠点を設けている。

スウェーデンのロースター Johan & Nystrom 社のエージェントとしてコーヒー豆を買い付けている Lars Pilengrim 氏も明らかに西洋消費者のアフリカコーヒー需要が増加傾向にあることを感じている。

彼によると『アフリカコーヒーの味はスカンジナビア半島で広く受け入れられている。即ちエチオピアやケニアのような伝統的な産地だけではなくその他のアフリカオリジンへの需要も増えている。我々は特にブルンディの内外から同国のコーヒーを買うことでプレゼンスを高めている』と。

以上